



# 道徳通信

NO. 3

平成27年7月10日発行  
道徳教育推進委員会

## どうしたらゴミのポイ捨てをやめさせられますか？

ある学校の近隣の方からの苦情です。

「学校帰りの生徒のポイ捨てが多くて、捨っても、捨ってもゴミが出ます。どうかしてください。」

ポイ捨てをされることは、とても嫌なものです。道を歩いていると、レジ袋に入った弁当容器、カップラーメンの容器、わりばし、マンガなどが道路の植えこみに散乱している場面によく出くわします。

本校周辺の状況はどうでしょうか？ポイ捨ての状況について考えてみましょう。

### ポイ捨ての主な発生場所はどんな場所？

観光地などでは、飲み終わった缶などが無造作にベンチの脇に置かれたりしています。

また、人目につきにくい場所として、歩道橋の下、植え込みのすみなどでもポイ捨てが行われています。

駅前や交差点などでは、歩行者が、すいがらやガムなどを道ばたに捨てることも多く、ポイ捨て禁止条例をつくり、規制している自治体がたくさんあります。



最近では、ポイ捨てを減らすために、罰金制度を導入する自治体も増えています。

### ポイ捨てが減った例はありますか？

東京・中央区の銀座は、一日に数十万人の人が利用する大きな街です。「銀座通り連合会」では、歴史ある銀座通りを汚してはならないとの店主たちの一致した意思のもとに、毎朝、店主が持ちビル周辺地区を磨いています。

また、専門業者に依頼して、毎日、3回銀座通りの清掃を行っています。清掃は、ポイ捨てタバコ、ポイ捨てガム、ペットボトルや缶などの回収、チラシや持ち込まれる看板などもゴミとして集めています。連合会では、環境浄化運動の徹底を合言葉に、銀座通り独自の基準を設け、全商店で取り組んで、いつもきれいな銀座通りを目標に活動を続けています。

このように、いつも掃除をして環境をきれいにし、誰かが常にチェックする体制を作っているため、多くの観光客や買い物客が訪れる街でありながら、ポイ捨ては少なく、清潔感のある街の様子が保たれています。地域ぐるみで活動することは、予防対策の一例として大変意味のあるものといえます。

こうした心くばりと努力が、世界的に有名な、清潔できれいな「銀座」ブランドのイメージを構築する上で一役買っているとのことでした。



ポイ捨ては、みんなの努力で減らすことのできる問題です。

ほんの少しの気づかいで、前向きにポイ捨てを解決していきたいですね。

## 通学路清掃を実施します

7月13日（月）の1時間目に、通学路清掃を実施する予定です。

これは毎年実施している活動の一環ということですが、1年生は初めての体験ということになります。

詳しい日程等は、担任の先生から指示があると思いますので、事故のないように作業を行ってください。

### 何のためにやるの？

高校生にとっては、住んでいる地域のことを深く考えることはあまりないと思います。

自分の住んでいる地域の生活環境を知り、愛着を持つことは、これから社会人として、さまざまなコミュニティの中で生活していくうえで欠くことはできません。

皆さんには、それぞれ地元での生活があります。しかしながら、東総工業高等学校において、自宅で過ごす以上の時間を過ごしている人も多いことでしょう。

自分たちが多くの時間を過ごしている周囲の環境に対して、自分が何を感じ、そのことを今後の生活でどう生かしていくかは非常に有意義なことです。

また、今回は、近隣の干潟小学校の児童の皆さんも、作業に参加してくれます。小さな子どもたちとのふれあいの中から何かを感じ取ってください。



なお、雨天時には中止ということになり、道徳の授業を実施します。

## 映像教材の紹介

今回の内容と関連した道徳の映像教材が、平成25年度末に各校に県教委から配付されています。

「守りたいもの」というタイトルの教材です。

主人公・涼はサーフィンが得意な高校生。誰よりも海とサーフィンを愛していると思っている。

そんな涼が、憧れのサーファーや地元文化の会長との出会いの中で郷土について考え始め思い悩む。

涼は、どのようなことをきっかけにしてどう変わっていったのか、という内容です。

野菜の太鼓も出てきますので、皆さんになじみのある内容とも言えるでしょう。

「守りたいもの」の画像から

